

釜石を元気に！

高校生の挑戦

た。『ないなら自分で作ろう!』と思いつつ、起業に挑戦しようと決意しま

「その挑戦の第一歩として、「かまいいし起業塾」に参加しました。「『高校生が本当に起業できるのだろうか』という不安が大きかつたものの、起業塾に参加したことで、一から起業について勉強することができました」と振り返ります。

特に大変だったのは、自分で考えて決めなければならないことだと言います。「中学生の頃は先生に尋ねれば教えてもらえていましたが、今は正解がなく、さまざまなお選択肢があり、自分で勉強しなければならないことに苦戦しました。一方で、お店の内装やデザイン、装飾など自分が好みに決められることが楽しいです」とほほ笑んでいました。

開業資金集めのために、約3カ月で150万円を目指にクラウドファンディングを実施しました。「最初挑戦！」

は身近

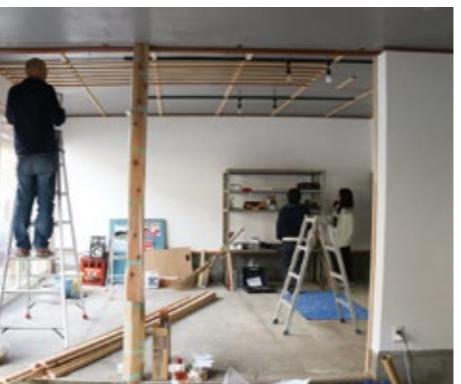
開業資金集めのために、約3カ月で150万円を目指にクラウドファンディングを実施しました。「最初挑戦！」

「達成できて嬉しかつたです。応援してくれる人の声が形になつたと感じています。お店がオープンしたら恩返しをしていきたいです」と会

「達成できて嬉しかったです。応援してくれる人の声が形になつたと感じています。お店がオープンしたら恩返しをしていきたいです」と会後決意を語りました。



お店の外観



既存店舗の修繕作業

「ないなら自分で作ろう！」　　いと感じていたそう。「思い切り踊
つたり、何かを表現したりする場な
ど、自分がやりたいことをできる環
古着とダンスが好きな皐さんは、
タルスペースの貸出をするお店「Crush on たすいち」を、母である梓さん
とオープンするために日夜奮闘している高校1年生の小笠原皐さん。この挑
戦は、釜石をもっとおもしろくしたいという想いを抱き、一步を踏み出した
若者の物語。

今日は、そんな皐さんの釜石への想いと、その挑戦に迫ります。

「ないなら自分で作ろう！」

今回は、そんな皇后さんの釜石への想いと、その挑戦に迫ります

クラウドファンディングに挑戦したきっかけは、梓さんの「応援してくれる人がいることを知つてほしい」という想いだったそうです。後にこの母の想いを聞いた皐さんは、「涙が止まりませんでした」と振り返ります。

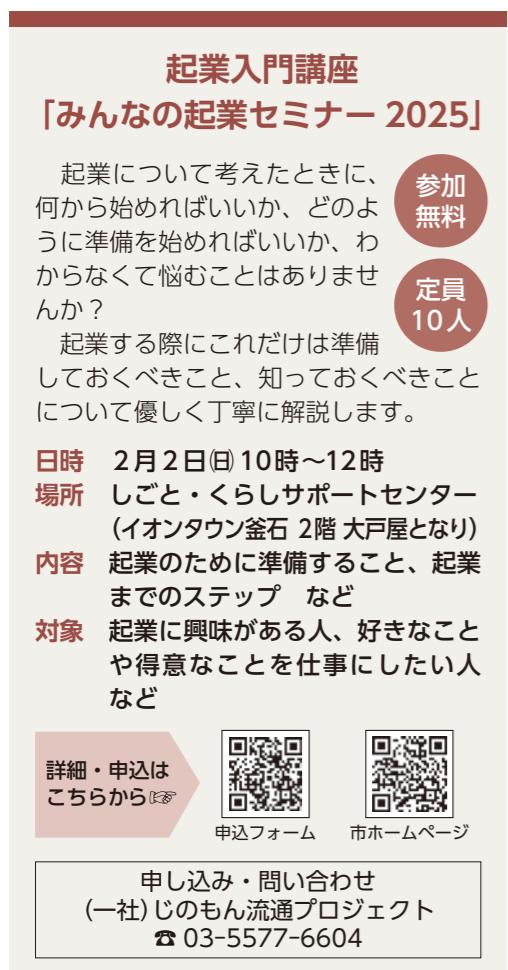
空き店舗を大改修！

お店を釜石大観音仲見世通りでオープンすると決めた理由を尋ねると「街なかやオンラインショッピングも考えましたが、若者の居場所づくりの想いもあつたため、お店を構えることにしました。また、私が小さい時から釜石大観音仲見世リノベーションプロジェクトが行われていて、母親に連れていくつもらっていたこともあります。仲見世通りは身近な存在でした。仲見世通りから盛り上げてこのまちを元気にしたいと思い、この

「場所を選びました」と言います
仲見世通りの空き店舗を借り、いざ蓋を開けてみると、そこは残置物であふれ、傷みもかなり進んでいたため、片付けと修繕作業からのスタートだったそうです。『本当にオープンすることができるのかな』と思いつながらも、すでにSNSで宣伝をしていたため、やるしかないという思いで必死でした。それでも周りの人たちの協力もあってオープン間近まで来ることができました」と支えてくれた人たちへの感謝の言葉を口にしました。

高校生としての一面

早さんは通信制高校に通う現役の高校生であります。「年に20回ほど登校して授業を受け、残りは家で動画を視聴してレポートを提出して



1月1日～3日にプレオープンしたお店には多くの人が訪ねました



首都圏企業へ取り組みを発表



高校1年生
小笠原 皐 さん
(16)